

全学FD学習会

2023年1月11日

対面・遠隔 同時開催



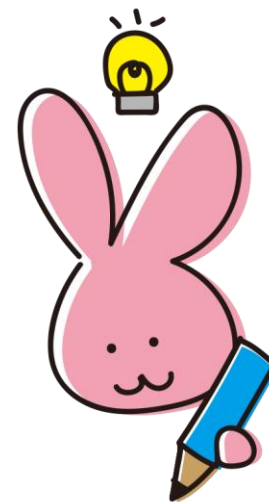
本日のスケジュール

15:15～ 開会挨拶
(室長：平尾 毅)

15:20～ セミナー
「学修成果を高める授業づくり
ーアクティブラーニングを考えるー」
(講師：西野 毅朗)

16:40～ 教育開発・学習支援室報告
(報告：西野 毅朗／多田 泰紘)

16:55 閉会



学修成果を高める 授業づくり

—アクティブラーニングを考える—

2023年1月11日

< 京都橘大学全学FD学習会 >

教育開発・教育開発学習支援室

経営学部 経営学科

西野 毅朗

内容

1. はじめに

2. アクティブラーニング（AL）とは

3. 効果的なALを考える

①アクティブラーニングの失敗原因

②逆向き設計

③協同学習

④ARCSモデル

⑤ピアインストラクション

⑥反転授業

4. その他の質問・要望への回答

5. まとめ

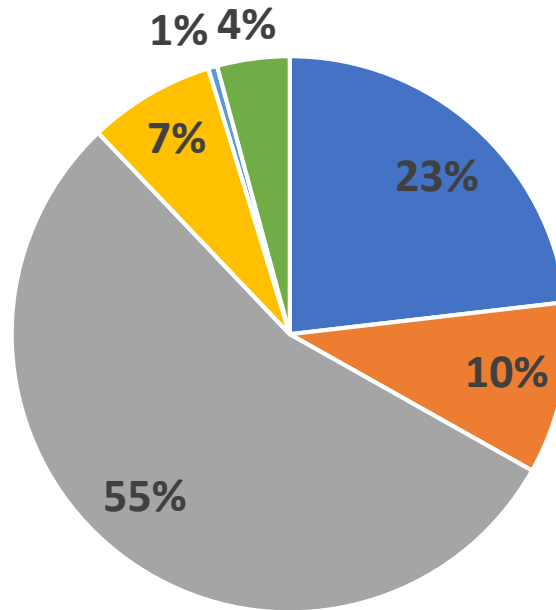
講師プロフィール：西野 毅朗（にしの たけろう）

- 京都橘大学 教育開発・学習支援室／経営学部経営学科 専任講師
- 同志社大学政策学部卒、同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程修了・博士（教育文化学）
- <単著>『日本のゼミナール教育』（2022年・玉川大学出版部）<共著書>『アクティブラーニング』（2015年）『大学のFDQ&A』（2016年）『研究指導』（2018年）（いずれも玉川大学出版部）『アクティブラーニングの活用』（2018年・医学書院）など



事前アンケートの結果から

Q. ご自身の授業実践について最も近いものを選んでください。(N=193)



- ① アクティブラーニングを積極的に意識して授業を工夫しており、効果を実感している。
- ② アクティブラーニングを積極的に意識して授業を工夫しているが、あまり効果を実感できていない。
- ③ アクティブラーニングを多少意識し、ちょっとした工夫をして授業を実践している。
- ④ 授業実践上、アクティブラーニングはほとんど意識していない（基本的に、一方向での講義のみしている）。
- ⑤ アクティブラーニングが何かわからない。
- その他

83%の教員が意識的に実践している

本学習会のねらい

(1) アクティブラーニングの観点から、よりよい授業づくりを考える。

- ・そもそもアクティブラーニング（AL）とは？
- ・効果的なALと、効果的でないALとの差は？
- ・ALに関わる教育・学習理論とは？

(2) 学科を越えた教員間の交流の機会をつくる。

- ・各々の教育実践について共有することで、気づきを得る。

- ・次年度シラバスに反映させる。(1月13日〆切)
- ・教育自己点検・評価に反映させる。(2月28日〆切)

交流機会① 遠隔参加者の皆様へ

- **ブレイクアウトルーム**を活用します。

（1グループ**4, 5人**です。**自動**で始まり、自動で終了します。グループ割り振りは自動となるため、もしかすると同一学科の先生と同じグループになってしまうかもしれません。気にせず進めてください。）

- **カメラをオン**にしてください。

（オンにできない、オンにすると通信に不具合が出る等の場合はオフのままでも結構です。）

- **ミュートを解除**してお話ください。

（マイクが使えない方は、チャットをご利用ください。）

- 不具合が発生した場合は、TeamsやPCの再起動を試みてください。

交流機会① 全員へ

●話す順番は、**氏名の50音順**でお願いします。

●話す内容は、以下について**1人1分（1 minute per person）**程度でお願いします。

- ・ 氏名（Name）
- ・ 所属学科／ご専門（Department of affiliation／Specialty）
- ・ 教員歴／京都橘大学歴（Teaching career／KTU career）
- ・ 授業実践上の工夫を1つご紹介
（Introduce one practical example of instruction）
- ・ 年末年始の出来事（What did you do for New year's?）

●**グループ全体で7分**とります。全員の自己紹介が終わったら、フリートーク（お互いに質問しあう等）してお待ちください。

内容

~~1. はじめに~~

2. アクティブラーニング (AL) とは

3. 効果的なALを考える

- ①アクティブラーニングの失敗原因
- ②逆向き設計
- ③協同学習
- ④ARCSモデル
- ⑤ピアインストラクション
- ⑥反転授業

4. その他の質問・要望への回答

5. まとめ

事前アンケートの結果から

Q. ご自身の授業実践にあてはまるものを全て選んでください。 (N=193)

学生自身に調べさせ、発表させることがある。	142	74%
学生同士（ペアやグループ）で話し合わせることがある。	141	73%
問題を解かせ、結果をフィードバックすることがある。	125	65%
発問し、その回答を用いて授業を進行することがある。	119	62%
レポートを書かせ、評価をフィードバックすることがある。	119	62%
チームで何かを成し遂げさせることがある。	118	61%
小テストを行い、結果をフィードバックすることがある。	101	52%
反転授業を行うことがある。	40	21%
協同学習の技法を用いることがある。	38	20%
インストラクショナルデザインの理論を活用して授業設計をすることがある。	10	5%
以上の中に、あてはまるものはない。	3	2%

2. アクティブラーニングとは？ —大学でALが求められる背景（中井，2015）

- **【教育のパラダイムシフト】** = 教育者中心から**学習者中心**への教育観の転換
※「(教員は)何を教えたか」から「(学生は)何ができるようになった」かへの転換
- **【社会からの要請】** = 大学の卒業生に対して、専門分野の知識だけでなく、**幅広い能力**が求められるようになったため
※学士力：知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力
- **【高等教育のユニバーサル化】** = **多様な学生**が大学に入学してくるようになったため
※学習意欲や目的意識の高い学生と**低い学生の格差**拡大
- **【生涯学習社会の実現】** = **生涯**にわたって主体的に学び続ける力を身につけてもらうため

中井俊樹（2015）『アクティブラーニング』玉川大学出版部。

⇒**伝統的な教育方法（＝一方向のみの講義形式）で可能？**

2. アクティブラーニングとは？

●アクティブラーニングの共通特徴(Bonwell & Eison,1991)

- Students are **involved in more than listening**.
- Less emphasis is placed on transmitting information and more on **developing students' skills**.
- Students are involved in **higher-order thinking** (analysis, synthesis, evaluation).
- Students are **engaged in activities**(e.g., reading, discussing, writing).
- Greater emphasis is placed on **students' exploration** of their own **attitudes and values**. (探査)

2. アクティブラーニングとは？

●日本におけるアクティブラーニングの定義

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」（中央教育審議会，2012）

「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」（溝上，2014）

2. アクティブラーニングとは？

●ディープ・アクティブラーニング（松下，2015）

・ディープ・アクティブラーニングとは、学生が他者と関わりながら、対象世界を深く学び、これまでの知識や経験と結びつけると同時にこれからの人生につなげていけるような学習のことを意味します。

・アクティブラーニングが学習の形態に焦点をあてるのに対して、ディープ・アクティブラーニングは学習の質に焦点をあてる。

・アクティブラーニングでは、内化ばかりの講義を批判するあまり、内化がおざなりになりがちである。（中略）ディープ・アクティブラーニングでは、内化と外化をどう組み合わせるかが課題となる。

松下佳代（2015）『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房。

●内化と外化の組み合わせによる学修成果の実証研究（紺田他，2017）

※内化＝予習態度（予習内容を理解するために、自分で考えたり、調べる）

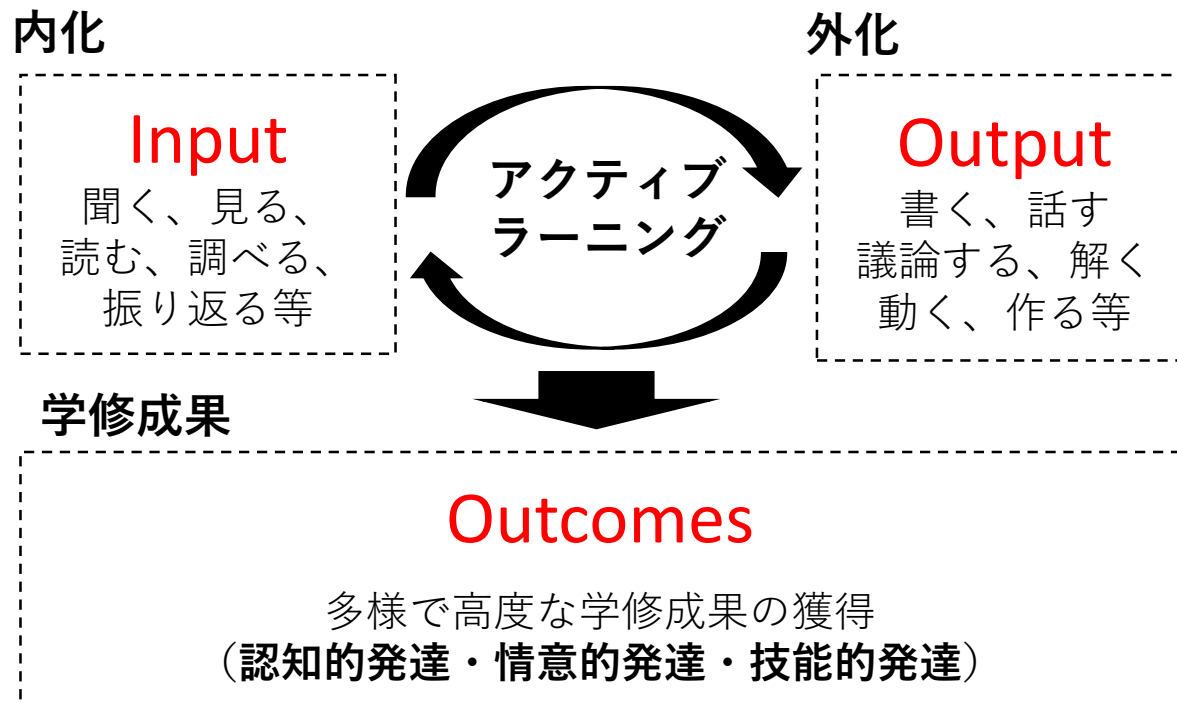
※外化＝AL態度（話す、議論する、発表するなどの態度）

※(学修)成果＝異文化理解、対人関係・表現力、専門知識・分析力、情報処理能力

- ・クラス全体の成果は、予習だけでは× 予習と外化が組み合わせると○
- ・学習者個人の成果は、予習だけでは△ 予習と外化が組み合わせると○

紺田広明, 三保紀裕, 本田周二, 山田嘉徳, 森朋子, 溝上慎一(2017)「アクティブラーニング型授業における予習と外化の効果：マルチレベルSEMによる実証的検討」 大学教育学会誌39 (2), 39-47.

2. アクティブラーニングとは？



アクティブラーニング = 「内化（≡インプット）と外化（≡アウトプット）を効果的に往還することにより、多様で高度な学修成果の獲得を促す教授・学習法」 （西野）

（事前アンケートからの授業実践例）

「成果物を作成するまでの過程・方法を示し、論理的にプロジェクトを構築していくプロセスを教えている」

【参考】多様で高度な学修成果

—教育目標分類（ブルーム・タキソノミー）で考える

レベル6	創造 (～を創造する等)		
レベル5	評価 (～を評価する等)	個性化 (哲学や世界観をもつ等)	自然化 (～を自然に行う等)
レベル4	分析 (～を分析する等)	組織化 (価値を体系づける等)	分節化 (～を適切に行う等)
レベル3	応用 (～に応用する等)	価値づけ (～な態度をとる等)	精密化 (～を正確に行う等)
レベル2	理解 (～を説明する等)	反応 (～に関心を持つ等)	巧妙化 (～を手順通り行う等)
レベル1	記憶 (～を知る等)	受け入れ (～を意識する等)	模倣 (～を模倣する等)
	認知的領域 (知識面)	情意的領域 (態度面)	精神運動的領域 (技能面)

梶田叡一（2010）『教育評価（第2版補訂2版）』有斐閣.を一部改訂したもの

※下位レベルの目標達成のために、上位レベルの学修課題を与えることもある

事前アンケートより実践事例のご紹介

— 認知的領域のレベル3以上の学修経験づくり

- 「いくつかの資料を提示し、それぞれの関係性を考察する時間をとり、自分の考えを発表してもらおう。じっくり考える、自分の考えをアウトプットする、他人の意見を精査することに取り組んでいる。」
- 「自由度は低くなるがある程度資料作成のフォーマットを作成し、見本をつくり、内容については各学生に調査させたものをフォーマットに記入し（分析・考察も行わせ）、資料を作成させる。その資料を事前配布し、学生同士議論させる。活発とはまではいえないが、それなりに内容について議論でき、学生の考察したものを発展させながら問題についてクラスで考えることができているように思う。」
- 「マーケティング・リサーチの授業において、授業で教えたフレームワーク等を学生が使いこなせるようにするためにいくつかの工夫を行っている。例えば、大学図書館のデータベースを使わせながらある業界の市場規模を調べさせたり、ペルソナ分析をさせ、その内容を学生同士で発表させている。また実際に消費者調査のためのアンケート項目を作らせ、その場で受講生同士でアンケート回答させるようなことを行っている。」
- 「このほか、実験心理学では、実験計画を立案からデータ解析まで、（前半は授業形式と小レポートで実施し）、後半は学生の発案をもとに実践的に学習させている。」

内容

- ~~1. はじめに~~
- ~~2. アクティブラーニング (AL) とは~~
- 3. 効果的なALを考える**
 - ①アクティブラーニングの失敗原因
 - ②逆向き設計
 - ③協同学習
 - ④ARCSモデル
 - ⑤ピアインストラクション
 - ⑥反転授業
4. その他の質問・要望への回答
5. まとめ

3. 効果的なALを考える①

—アクティブラーニングの失敗原因

(中部地域大学グループ・東海Aチーム, 2014を一部を筆者が編集したもの)

(1) 教員によるもの

1) 価値観の固執

①形式偏重 ②成果偏重 ③自主性偏重

2) 授業準備不足

①指導上の問題 (自習促進なし、介入不足、過剰介入、グルーピングミス)
②評価上の問題 (成績評価との連動なし、貢献度評価なし)

(2) 学生によるもの

1) 目的喪失

①怠惰 ②不挑戦 ③方向性間違い

2) 知識技能不足

①前提知識の不足 ②思考訓練不足 ③汎用的技能不足

(3) 組織によるもの

1) カリキュラムの体系性欠如

2) 組織的な連携の不足

3. 効果的なALを考える②

— 逆向き設計

● 「双子の過ち」への注意喚起

・ 網羅主義の過ち

規定された時間内ですべての内容を伝えようとする（ただし、伝わっているとは限らず、内容網羅以上の効果を期待することが困難）

・ 活動主義の過ち

聞く以外の活動を積極的に学習者に求める（ただし、動いていても頭は使っていないという状況を生み出しかねない）

→ 双子の過ちの原因 = 授業設計の無目的さ

● 「逆向き設計」の推奨

- ① 【目標】 学生に求める 結果のレベル を明確にする
- ② 【評価】 学生が目標を達成したかどうかを 確認する方法 を明確にする
- ③ 【経験】 学生が目標を達成するために必要な 学習経験 を明確にする

3. 効果的なALを考える③—協同学習

●協同学習とは

「小グループの教育的使用であり、**学生が自分自身の学びと学習仲間の学びを最大限にする**ために共に学び合う学習法」（安永，2012）

●協同学習の効果

ジョンソン兄弟が、個別・競争・協同条件による学習成果の差に関する2553件の実証研究をレビューした結果、**成績、自尊心、対人関係**について、**協同条件による学習が優れている**ことが明らかになった。（杉江、2011）

3. 効果的なALを考える③—協同学習

●協同学習の要件

1) 肯定的相互依存

誰かに任せっきりになっていたり、足をひっぱりあうような関係ではなく、**共通の目標達成のために、互いの力を出し合える関係を築く。**

2) 個人の2つの責任

自分自身の学びに対する責任と、グループの仲間一人ひとりの学びに対する責任という2つの責任を負う。

3) 促進的相互交流

全員がバランスよく発言し、相手の意見を尊重し傾聴する。

4) 集団作業スキルの促進

基本的なコミュニケーションのスキルや、リーダーシップやフォロワーシップといった**スキルを発揮し、伸ばすことを意識する。**

5) 学生が活動を振り返り改善している

自分は良く学ぶことができたか、自分はメンバーの学びに貢献することができたか、**誰のどのような行為が学びの役にたったか、継続すべき行為と改善すべき行為は何かを考え、次の協同学習に活かす。**

安永悟（2012）『活動生を高める授業づくり—協同学習のすすめ』医学書院.

この要件を満たせるような授業設計をすることはもちろん、全員の学修成果を最大化するための**ルールとして、学生に周知徹底**するのも一手

事前アンケートより実践事例のご紹介

<シンク・ペア・シェア>

- ・「問いかけるとき、先生対学生ひとりひとりではなく、学生ペア以上で議論させて答えさせている。この方が**必ず全員が発語**する。」
- ・「授業後半に**授業内容に関する課題**をペアワークで議論し、その**結果をいくつかのペアに発表**してもらい、全員で共有する。」

<シンク・グループ・シェア>

- ・「仮名古筆の分析や臨書にあたっての**観点**等について**グループで協議**することで、学生の学びの姿勢が主体的になる。また、協議の**結果を発表し合う**ことで、学びが深まる、その後の実習に好結果をもたらしている。」
- ・「GWさせて、代表のグループにプレゼンさせて、意見交換することで、**おおっという他学生の意見**を共有できている。」

※「シンク」のために「**ライト**」させることもある。

※「ライト」させたものは**回収してフィードバック**することもある。

※あらかじめペアやメンバーで番号（話す順番）を決め、ディスカッション後に教員が**指定した番号の人に話してもらう**工夫もある。

事前アンケート「質問」と回答

Q."「出る杭は引っこ抜かれる」と言われるほど、目立つことを避け、他者と同一化しようとする世代に対して、自主的な発表や挙手による授業参加が受講生の負担となり、学習モチベーションを下げるのではと不安を覚える場面があります。IDが普及して年月が経ち、理論に沿わない対応が必要なのか、それとも理論は理論として実践した方が良いのか、他の先生方のご意見を伺いたいです。

※ID = Instructional Design

- (ID的発想で逆に考えてみる) 自主的な発表や挙手が、目指す学修目標に対してどれだけ効果的か？もし自主性を育てることを目指すならば、自主的な発表や挙手を求めるだけで良いのか？(自主的にできたことを毎回書いて提出させる等)
- 自主的な発表や挙手がしやすい(したくなる)状況をつくらせているか？(難易度の低い問題、間違えても良いという安心感、他者を気にしなくても良い人間関係、挙手のメリットの自覚等)
- 自主的な発表や挙手ができる能力(態度)を育成できているか？

< 挙手以外のおすすめの方法 >

- グループ代表者による発表(進行役・書記役・発表役・時計役を最初に決めさせてからディスカッションを始めるもGOOD)

※発表順は挙手でOK

事前アンケートより実践事例のご紹介

<役割の有効活用>

- 「教材の内容について**発表チーム**と**討論チーム**がそれぞれ発表・討論し、次回の発表と討論チームの**オーディエンス**がその発表・討論を評価シートを用いて評価する。」
- 「グループワークに関して、①**専門性を分けたメンバー配置**を行い、相互に異なった視点から意見を述べさせる、②時に代表者のみに指導しメンバーに知識の共有を促す、③グループでの作業はオンラインエディタを用いて記録を取らせ、メンバー内での作業内容の共有を円滑にする、④授業内容によりグループ編成を変え、いろいろな人との意見交流ができるようにしている。」
- 「「情報サービス演習Ⅱ」において、レファレンス演習を学生のペアによる**ロールプレイ**で実践しているが、学生のアクティブな様子がよく伝わってきており、学生に課しているリフレクションにおいて、能動的なコメントが多いので、学習効果を実感しています。」
- 「**違う立場**を経験する（受験者・面接官）」

【参考】全員先生方式

<予習課題>

- 教科書等で予習範囲を指定し、学生に“講義用ハンドアウト”を作成してこさせる。

<授業>

- 【5～10分】学生同士でペアを組み、「先生役」と「学生役」を決め、一定時間で講義法ハンドアウトの半分についてミニ講義を行わせる。
- 【5～10分】役割を交代させ、残り半分についてもミニ講義を行わせる。
- 【40～60分】教員が講義内容について補足説明する。
- 【5～10分】ミニ講義の感想を全員に書かせ、ペアとその感想を共有する。

<補足>

※講義用ハンドアウトは提出させ、成績評価の対象とする。

※学生によるミニ講義と教員による補足説明の間に小テストを行い、理解度を確認してから補足説明しても良い。

事前アンケート「質問」と回答

Q.グループワークに適した人数

A.原則2～6名、慣れないうちは3，4名が適當。

Q.学生同士の議論が行き詰まったときのファシリテーション方法

A. ①状況把握⇒発問 ②他のグループとの交流（1名だけ残るor行く）

Q.グループワークでは一見うまくいっているようで、実態は特定の学生による活動でグループが成り立ってしまい、均等な学生の作業量にならないといったことがある。こういった場合は**どのような方法で、作業量を均等化することができるのか**、方策があれば知りたい。

A. グループワークの最初に役割分担をさせる。

毎回同じ役割ではなく、様々な役割への挑戦を促す。

授業時間外課題の役割分担も自分たちで考えさせる。

3. 効果的なALを考える④—ARCSモデル

学習意欲の概念	概念の分類	方法的説明	具体例
Attention (注意)	①知覚的喚起	入口で関心をひく	●課題へフィードバックする。 ●今日のテストを最初にする。
	②探究心喚起	好奇心を大切にす	●テーマを自分で選ば(考えさ)せる。 ●疑問や質問を事前に集める。
	③変化性	マンネリを避ける	●講義と演習を交互に行う。 ●グループワークのレベルを上げていく。
Relevance (関連性)	④親しみやすさ	自分事としてイメージしやすくする	●学生にアンケートをとる ●既習内容の具体例を考えさせ討議や発表に使う。
	⑤目的指向性	学生の将来の目的目標と結びつける	●学生自身に学習目標を立てさせる。
	⑥動機との一致	学習ニーズと一致させる	●授業中の参加度や、貢献度を成績評価に考慮する。(学修目標との一致も重要)

Q.「毎回のミニッツペーパーへのフィードバックへについて。複数の科目が進行している場合に時間的余裕がなくなってしまう。」

A.代表的なものだけピックアップし、口頭でのフィードバックでもOK。
匿名化して全員分共有も一手。

学習意欲の概念	概念の分類	方法的説明	具体例
Confidence (自信)	⑦学習要求	学習目標や評価の理解を促す	<ul style="list-style-type: none"> ●過去問を解かせてみる ●優秀な先輩の成果物を分析させる。 ●他者の成果物を評価させる。
	⑧成功の機会	成功を経験する機会を学習者に与える	<ul style="list-style-type: none"> ●問題を解く回数を増やす。 ●苦手な事にも何度か挑戦させる。
	⑨自己制御	自分の力で成功したという実感が得られる	<ul style="list-style-type: none"> ●課題を修正提出する機会を与える。 ●期末試験だけでなく、中間試験を導入する *中間試験などの結果を分析させ、学習方法の工夫について自ら考えさせる。
Satisfaction (満足感)	⑩内発的な強化	学習者が能力を発揮する機会を与える	●教材を作らせる（後輩や、高校生向けなど）⇒オープンキャンパス利用
	⑪外発的な強化	学習者の成功に対して賞賛を与える	●課題に肯定的なフィードバックをする。（特別加点をしたり、表彰する）
	⑫公平さ	評価を公平に行う	●自己評価を踏まえた客観評価をフィードバックする（基準は事前に明確にしておく）

3. 効果的なALを考える⑤ーピアインストラクション

「Q.相手からの良い反応が欲しい。ちゃんと理解できているのかがリアルタイムでわかりづらい。」

A.ユニパの「**クリッカー**」機能がオススメ。

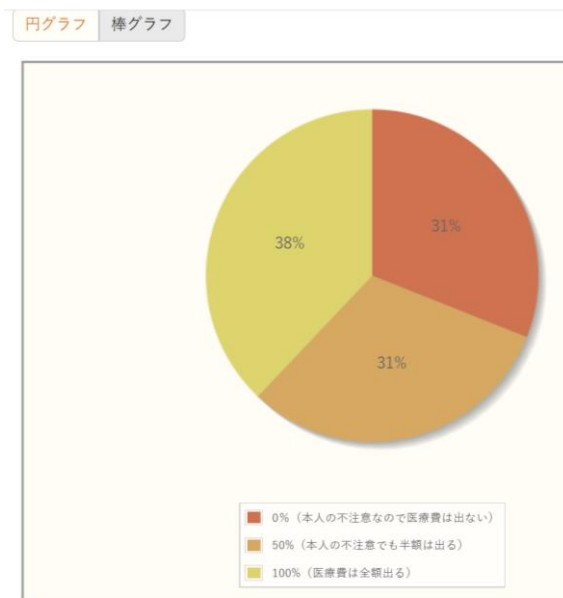
クイズ③アルバイトの医療費補償

本人の不注意で仕事中にケガをしたら、医療費は何%出してもらえますか？

氏名 匿名希望

選択 0% (本人の不注意なので医療費は出ない)
 50% (本人の不注意でも半額は出る)
 100% (医療費は全額出る)

B I U S x₂ x² T!

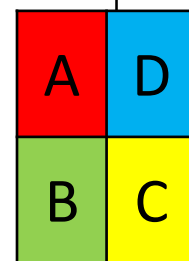


アクティブラーニングの技法「**ピア・インストラクション**」

⇒学修目標にとって重要な問題と学生同士の議論を活用した教授法

- ①クリッカーで問題を提示し回答させる (回答状況を学生に公開する)
- ②ペアやグループで正答を議論させる
- ③再度問題に回答させる
- ④正答を教員が解説する

クリッカー使用が面倒な場合は「**ABCDカード**」等での代用も可



3. 効果的なALを考える⑥—反転授業

- 「資格科目の講義では、勢い、事実・知識を伝える講義に頼りがちで、インタラクティブな学習は、教員からの課題への回答を授業内で学生と共有するか、ユニパへの回答にコメントを返すといったやり取りに限られています。授業内で討議をするというような時間を取るには、講義で教授する内容の取捨選択が必要で、重要な事項の何を割愛するか(学生の自己学習にゆだねる)の検討に行き詰まり、足踏みしてしまっています。」
- 経験的な流れで授業を展開している。なかなか新しい技術手法をこなすことが出来ていないと思っています。詰め込みにならないように配慮しても年々新しくなる情報も加えると盛りだくさんになります。国家試験だけを対策しているのではないので考えを広げてもらえるような授業を展開したいです。

反転授業のすすめ	【方法】 予習 + 課題⇒予習関連講義 + 討議等
	【効果】 成績の向上 + 授業外学習時間の増加

反転授業を成功させるためのポイント

①対面授業で増やしたいことを考える

- 授業を通して学生にどうなってもらいたいのか？
- それを達成するためには何が必要か？
- 対面でなくとも良いことは何か？

②予習を促す

- 予習に「**動機づけ**」「**目標・主題設定**」「**まとめ**」を入れる
- 必ずしも、動画でなければならぬわけではない（例：教科書p.8-12）
- 既知の内容と結び付けるようにする
- 予習**課題の活用**
 - ⇒小テスト、ミニッツペーパー、内容要約の提出等
- 予習をしないと自分が損をしたり、他人に迷惑が掛かるという自覚を促す
 - ⇒予習内容を不必要に解説しない、集団討議の活用

③予習内容と授業内容を連関させる

- 予習課題に関してフィードバックする
- 「**動機づけ**」「**目標・主題設定**」「**まとめ**」を再度入れる
- 予習内容に付け加える形で、**関連・最新知識**を伝える
- 予習内容を踏まえた**応用問題**に個人・グループで取り組む
 - ⇒結果を共有し、教員がフィードバックする

内容

- ~~1. はじめに~~
- ~~2. アクティブラーニング (AL) とは~~
- ~~3. 効果的なALを考える~~
 - ~~①アクティブラーニングの失敗原因~~
 - ~~②逆向き設計~~
 - ~~③協同学習~~
 - ~~④ARCSモデル~~
 - ~~⑤ピアインストラクション~~
 - ~~⑥反転授業~~
- 4. その他の質問・要望への回答**
5. まとめ

4. その他「質問・要望」への回答

Q.発達障害あるいはその可能性があるグレーゾーンの学生が数名いるクラスでのアクティブラーニングの実施例について、よい事例があれば、教えていただきたいです。

1) 個別の状況把握

何は出来て、何は出来ないか、本人は何が出来るようになりたいか

⇒「学生カルテ」を参照する／学科担当職員に問い合わせる／個別に連絡をとって面談する／ミニッツペーパー等授業後課題で質問や相談を受け付ける

2) 環境の検討

ペアやグループメンバー、座席の位置を考慮する

3) 方法の検討

難易度を下げる＝シンク・ペア・シェア等／場合によっては個別学習

4) 目的やルールの周知徹底

多様な人々とコミュニケーションをとる力、協働する力の獲得等

4. その他「質問・要望」への回答

Q.アクティブラーニングといっても、学生は指示待ちが多いです。学生主体で学習してもらうために、どこまで学生に任せて良いものか、知りたいです。

<指示待ちの原因と対策>

1) 課題がわからない

- ・いつまでに、何を、どれだけ(のレベル=評価基準で)達成すればよいか明確にする
- ・与えられた課題だけではない、自らの課題(目標)はいったい何なのか?を言語化させる

2) 課題の達成方法がわからない

- ・課題達成のためにすべきことを考えさせる

3) 課題達成までの到達状況がわからない

- ・何ができていて、何ができていないのかを自覚させる

4) 指示待ちの方が楽

- ・主体的に取り組むことの充実感や、達成感を味わえるようにする
(主体的な取り組みへの肯定的なフィードバック、チーム学習の充実)

4. その他「質問・要望」への回答

Q. Teamsの効果的活用法を知りたい。

（事前アンケートより引用）「まず各自のレポートをTeamsのクラスのファイルにゼミ前日までに入れさせ、それを全員が、ゼミまでに読んで、ゼミに臨むというもの。みんなモチベーションもまあまあ。Teamsのおかげ。」

- Teamsの利用法を学生に教える（共同編集、メンション等）
- Teamsの利用を学生に促す
（投稿数、返信含リアクション数を評価の対象にする等）
- 授業回毎にチャンネルを作り、学んだことの投稿と、他者の投稿へのコメントを必須化する
- 課題フィードバックでルーブリック機能を活用する

内容

- ~~1. はじめに~~
- ~~2. アクティブラーニング (AL) とは~~
- ~~3. 効果的なALを考える~~
 - ~~① アクティブラーニングの失敗原因~~
 - ~~② 逆向き設計~~
 - ~~③ 協同学習~~
 - ~~④ ARCSモデル~~
 - ~~⑤ ピアインストラクション~~
 - ~~⑥ 反転授業~~
- ~~4. その他の質問・要望への回答~~
- 5. まとめ**

5. まとめ

●本学習会のねらい

(1) アクティブラーニングの観点から、よりよい授業づくりを考える。

- ・そもそもアクティブラーニング（AL）とは？
- ・効果的なALと、効果的でないALとの差は？
- ・ALに関わる教育・学習理論とは？

(2) 学科を越えた教員間の交流の機会をつくる。

- ・各々の教育実践について共有することで、気づきを得る。

- ・次年度シラバスに反映させる。（1月13日〆切）
- ・教育自己点検・評価に反映させる。（2月28日〆切）

5. まとめ — 交流機会②

●話す順番は、**氏名の50音順**でお願いします。

●話す内容は、**以下から1つ選んで (Select a topic)**、1人1分 (1 minute per person) 程度でお願いします。

①本日の内容を聞いて、**自身がすでに実践していると気づいたこと**

Based on today's lecture, what do you find yourself already doing in your class?

②本日の内容を聞いて、**今後実践してみたいと思ったこと**

Based on today's lecture, what do you want to do in your class?

③本日の内容を聞いて、**疑問に思ったこと**

Based on today's lecture, do you have any questions?

④**他の教員がどのようにしているか**、聞いてみたいこと

What do you want to ask other teachers?

●**グループ全体で7分**とります。全員の話が終わったら、③④について話された先生に向けて、他の先生からコメントをお願いします。